





鶴丸城跡

薩摩は人をもって城となす

SATSUMA NEEDS NO GRAND CASTLE BECAUSE THE PEOPLE ARE ITS STRONGHOLD

众志成城萨摩人 众志成城의薩摩人 지성지는 사람으로 성을 이루다

Site of Tsunomaru Castle

鶴丸城跡

鹿児島県

1870年 築

一 77万石の本拠は天守閣をもたない屋形づくり

鶴が翼を広げた形をしていることから鹿児島城は別名鶴丸城と呼ばれていました。

1601年(豊長6)、関が原合戦の後、島津家18代家久が上山城(城山)の補修と城の屋形づくりを思い立ち、父義弘の「ここは海に近すぎて急ない」という反対を押し切って着工します。家久はこの地を政治・経済の中心地として城下町の建設を始めたのです。まず居館を築き、その周辺に家臣の屋敷を移し、1606年(豊長11)城の前の橋が完成したとされています。

城といっても本丸、二の丸、下屋敷が並び、天守閣や櫓楼のない屋形づくりでした。これは、「城をもって守りと成さず、人をもって城と成す」という薩摩藩流の思想によるもので、藩内の各所には兵農一致の郷士団が守る外城がめぐらされていました。

城下は鶴丸城を中心に武家屋敷、その外側に上町6町、下町12町、そして西田町4町が設けられ、5,000人余りの町人が集められました。圧倒的に武士の多い城下町だったようです。

維新後は、熊本鎮台の分営として使われ、1873年(明治6)炎上。残されたのは城壁と財宝珠つきの石橋だけとなりました。



—The capital of our 775,000 koku domain has no stately mansion nor a castle tower—

Tsunomaru castle was called Tsunomaru castle because it looked like a crane (Japanese name "Tsun") with its wings open.

In 1601, after the battle of Sekigahara, the 18th lord Shimadzu Yoshihide decided to repair Utsunoyama Castle. His father claimed that this site was too close to the beach, but while wanting this particular area to be the location of his castle town, and political and economic center, Yoshihide built his mansion here, and then his retainers moved in nearby. The bridge in front of the castle was completed in 1606.

The keep and auxiliary were built according to plan, but there was no tower. This was due to the philosophy of the Satsuma Clan, that there was no need for a grand castle because "the people are the stronghold." Thus the defenses of the domain was entrusted to Satsuma soldier-farmers.

The castle town comprised Tsunomaru Castle surrounded by samurai houses. There were six samurai enclaves in Kanmachi, twice in Shinmachi, and four in Nishida-machi. There were also 3,000 merchants living near the samurai areas, but the number of samurai warriors was greater than that of any other group in the castle town.

After the Meiji Restoration, the castle was used as the garrison for a detachment of troops from Kumamoto Prefecture but during the Satsuma Rebellion, in 1873, almost everything was burnt. The only remains are the outer wall and a stone bridge.



鹿児島県





ニホンヒキガエルが
生息しています



本州の近畿地方以西と四国、九州にすんでいます。普段は城山の中の物陰や落ち葉の下などに潜っていますが、暖かくなると産卵のために水辺に出てきます。体の大きい方がメス、小さい方がオスです。

《御池》

豊津氏第18代家久によって構築され、270年間にわたって豊津氏の本城であった鹿兒島城（鶴丸城）本丸の東南隅に、御池と呼ばれる池がありました。明治時代初めに廃城となり、その後、城跡には中学造士館や第七高等学校造士館が建てられました。昭和時代の初めごろ、七高のプール建設のため御池の石材の一部は鹿兒島市の公会堂（現在の中央公民館）で使われ、大部分のものは鹿兒島市鴨池動物園の庭園に移設されていました。昭和46年12月、同園が平川へ移転のため、この石材は当時明治百年記念事業として建設計画のあった黎明館の庭園用に鹿兒島市から譲渡され、昭和58年この場所に復元しました。

大悲水（大悲とは仏の広大な慈悲心をあらわす）と刻まれた石をつたって水が流れるこの池には、九章橋がかけています。

九章は、沢の深い所、深遠な所という意味で、中国最古の詩集である「詩経」に「鶴鳴于九章、聲聞于野」とあります。鶴は、いかに奥深い沢で鳴いてもその声はどこまでも聞こえることから、賢人の評判は自然に遠くまで伝わるという意味です。

黎明館では、このような由緒ある池を江戸時代の歴史を偲ぶよすがとして、再び御池と呼ぶことにしました。



明治初年に29代豊津忠義が撮影した城内の御池

ニホンヒキガエルが生息しています



豊城の御池は、池内にはカエルの生息地として、カエルが生息しています。御池は城跡の中の御池は、池内にはカエルの生息地として、カエルが生息しています。御池は城跡の中の御池は、池内にはカエルの生息地として、カエルが生息しています。





















享年四十五歳

原久志





































































